

第31回テーマ：
六甲山開発史

講演内容

- ①昭和初期の六甲山
阪神・阪急の開発競争
- ②戦後の六甲山
国立公園化
- ③記念碑台の移り変わり
(フィールドワークの案内)

実施日：平成17年10月15日(土)
午後12時30分～3時
場 所：六甲山自然保護センター
レクチャールーム



講師：森地 一夫さん

プロフィール

1960年生まれ。関西学院
大学理学部卒業、神戸大学大
学院理学研究科数学専攻理学
修士。コンピューター・ソフ
トウェア会社に勤務。ボーイ
スカウト西宮地区役員。HP
「祖父の見た六甲山」を開設。



六甲登山ロープウェイ跡
を背に解説

実践こうべ学第2回と併催

今回の市民セミナーは、「実践こうべ学」の第3回講座と併催しました。県立神戸生活創造センター、県立人と自然の博物館と当会の三者が共催で実施しているものです。自然保護センターに総勢48名が集まり、レクチャールームは満員で賑わいました。雨が降ったりやんだり天気は不安定でしたが、「それも六甲山の自然の魅力だ！」と雨や霧の景色を楽しみました。

森地さんの探求心に感服

講師の森地一夫さんはホームページ「祖父の見た六甲山」を開設しています。六甲山の開祖といわれるA. Hグループ氏以降の六甲山開発について調べている卓越したフィールドワーカー(オタク?)です。講演では、阪神と阪急の開発競争をひも解かれ、意外と知られていない昭和初期の六甲山開発の様子を解説していただきました。また六甲山に関する本や地図など貴重な資料もたくさん紹介されました。小さな疑問を大切にする森地さんの探求心には感服しました。



レクチャールームは満員状態

主催：六甲山自然保護センターを活用する会
協力：兵庫県立人と自然の博物館
後援：兵庫県神戸県民局 灘区役所 神戸市教育委員会

昭和初期の賑わいを辿る

開発の概要の話に続いて、4つのグループに分かれてフィールドワークをしました。探訪マップをもとに記念碑台周辺を歩き、昭和初期の写真と現在とを見比べました。六甲山ホテルの旧館や六甲登山ロープウェイ跡地など六甲山開発の名残を確かめながら、当時の賑やかな様子に思いを馳せました。

六甲山スローライフ探検隊が踏み出した

六甲山開発の歴史を探求する興味が募りました。これからの六甲山への関わりを考えるには、昭和初期の六甲山を知ることは重要です。森地さんの実践に学びながら、六甲山でのスローライフが賑わった時代に注目していきます。

※詳しくは、1. 2ページをお読みください。

参加の感想 戸次 寿一さん

普段何気なく眺めていた六甲山、開発当時のことも考えたことはありませんでした。今回参加して、明治時代から戦前にかけて、山に想いをかけた人々の努力によって開発が進んだことを解説いただき、その一端をうかがい知ることができました。また、開発当時の痕跡を、実際にフィールドを通して知ることができたことも有意義でした。



【助成金をいただいている機関】

(財)大阪コミュニティ財団(東洋ゴムグループ環境保護基金)、(財)ひょうご環境創造協会、コープこうべ環境基金、灘区役所「地域力を高める」事業助成



テーマ：六甲山開発史



第31回市民セミナーの流れ

市民セミナー

1. あいさつ：12:30～12:45
2. 講演：12:45～13:25
3. フィールドワーク：13:25～14:25
4. 質疑応答：14:25～15:00

講演

- ①昭和初期の六甲山～阪神・阪急の開発競争
- ②戦後の六甲山～国立公園化
- ③記念碑台の移り変わり～フィールドワーク



大阪毎日新聞の石碑

講演のあいさつ(森地一夫さん)

ホームページ「祖父の見た六甲山」を開設しています。祖父は六甲山ホテルの支配人を務めた人で、祖父の残した六甲山の昔の地図がきっかけで六甲山の歴史を調べ始めました。分からないことを調べるうちにだんだんとはまっていき、六甲山オタクになりました。今日はオタクの心意気を皆さんに感じていただきたいと思います。



森地 一夫さん

講演内容

1. 昭和初期の六甲山～阪神・阪急の開発競争 ■昭和初期～にぎやかな六甲山



関西山小屋「六甲山特輯(しゅう)」(昭和12年)には「およそ六甲ほど変化に富んだ山はなく、六甲ほど多種多様の登山者を見る山はない」とある。「パラソルを差して美しい和服の麗人」や「葉巻をくゆらし、ゴルフパンツをはいた肥満ブルジョア氏」、「リュックサックにセーラー服の女学生」、「ニッカボッカに登山靴の実業登山団」などなど色々な人たちが賑わっていた。

■明治のころの六甲山

グルームが六甲山に惚れ込んで開発を始めた。家を建てて道を整備し、居留地にいる外国人を誘った。明治43年頃の六甲山の地図に住民の名前が書かれているが、40数軒中、一人を除き全員外国人。

当時はカゴで山に登った。山麓の五毛や大石はカゴの出発点として賑わった。山上には茶店があり、ホテルより安く泊まることができた。

明治の終わり頃に「六甲開祖之碑」が建てられ、その場所が「記念碑台」と呼ばれるようになった。

■昭和初期の六甲山開発

第1次大戦が起って、外国人はどんどん帰国。一時さびれたが、代わりに軍需景気で成金になった日本人が急激に増えた。代表格は天王寺で鉄鋼所を経営した奥村氏。儲かって仕方がないので社員にボーナスを33ヶ月分出し、丁字ヶ辻の辺りに家を建てて、昭和4年に自費で道路(表六甲ドライブウェイの戦前版)を建設。兵庫県に寄付した。

六甲山は麓住民の里山として、氷や薪・山菜などの天然資源を供給してきた山で、共有物として使われてきた。その利用権(入会権)が大正15年に解消され、昭和からの一大開発ラッシュにつながった。



■阪神によるインフラ整備

昭和2年に阪神が有野村から山上の広大な土地を購入し、開発に着手した。阪神は山上を住宅別荘・水源・森林・遊園・商業の五区に分けて開発計画を立て、貸し別荘やオリエンタルホテルを建設。六甲越有馬鉄道(六甲ケーブル)を建設し、昭和8年には六甲山回遊道路を整備した。

■阪神・阪急の開発競争

山麓での対抗意識を山上に持ち込む形で阪急が開発に参入。六甲山ホテルや六甲登山ロープウェイを建設した。阪神と阪急の競争は「まるで早慶戦その儘一山の神聖を患ふる葺合署」という新聞記事になるほどだった。

山上には数百の別荘ができ、土日にはドライブウェイを高級車が砂煙をあげ疾走。昭和12年頃には100万人以上六甲山に上ったという。

六甲山の賑わいは絶頂を極めたが、開発は無駄が多く、節操を欠いたものになった。



■体位向上の山

戦時中はこの活気も軍靴の足音に消され、六甲山は銃後の備え「体位向上の山」としての役割を担うことになった。排英運動の高まりを受けて、昭和15年(17年?)に「六甲開祖之碑」は撤去された。ロープウェイは金属回収のために昭和19年に撤去。今はアイスロードの脇にその廃墟だけが残る。

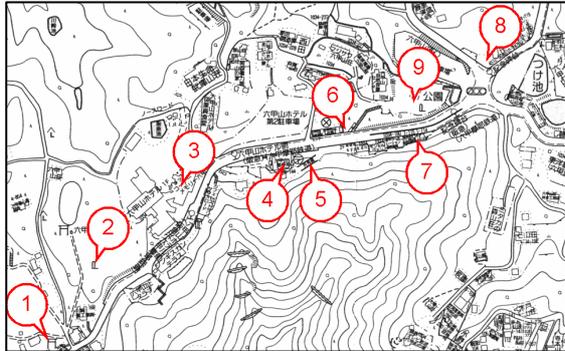
2. 戦後の六甲山～国立公園化

■戦後の六甲山

戦争を経て六甲山は荒廃し、六甲山ホテルが昭和26年に再開業したものの、茶店は13軒ほどに減っていた。六甲山を愛した阪急の小林一三氏は朝日新聞(昭和27年)に「六甲山は泣いている」という一文を投稿している。さらに神戸市との折衝を進め、表六甲ドライブウェイの再建に出資、国立公園化に向けて中心的な働きをした。ロープウェイを復活させるという話もあったが、小林氏は「これからはモータリゼーションの時代」と一蹴したという。

3. フィールドワーク

開発史の話の後、森地さんから記念碑台周辺の探訪マップを渡されて野外調査に出向いた。①～⑨の記号が付けられた所に昔の遺跡を求めて探検した。



探訪マップ

あいにくの雨、欲を出して方々を見て回り、気づくと予定の30分を大幅に過ぎてしまっていた。

■探訪マップで取り上げた場所

- ①白髭神社②六甲山開発記念之碑③六甲山ホテル
④六甲山郵便局⑤月見橋⑥お地蔵さん⑦六甲銀座
⑧六甲山廻遊道路之碑⑨記念碑台

<探訪マップの解説の一部>

- ③六甲山ホテル：森地さんの祖父、高岡勇さんが描かれた六甲山の鳥類の絵を発見。六甲山にいないはずの「キタタキ」の絵が描かれているのは謎。
⑤月見橋：阪急のロープウェイ駅の名残。ロープウェイは函館山ロープウェイも手掛けた川浪知熊氏的设计。高い技術力が注目され、海外からも依頼。



③六甲山の鳥類の絵
(六甲山ホテル)



⑥お地蔵さん
(道路沿い)

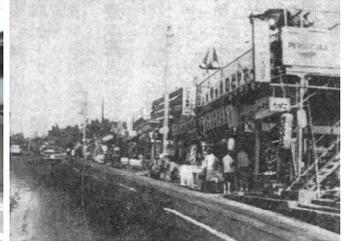
⑥お地蔵さん：アイスロードでは昔、牛を引いて上っていた。牛車で荷物を運ぶ途中落ちた死傷者を祀ったもの。アイスロードから移してきた。

⑦六甲銀座：戦後、観光客が増えるにしたがって、みやげ物や食べ物屋などが立ち並び、「六甲銀座」と呼ばれて賑わった。

⑧六甲山廻遊道路之碑：昭和7年に建立。阪神が建設した六甲山廻遊道路は全長約7キロメートル



現在の六甲銀座



昔の六甲銀座

まとめ

一気に多くの話題をお話したが、六甲山にはまだまだわからないことがある。

●昭和初期の六甲山の様子はどうだったか？：写真を発掘し、当時の地図と現在を比較して調べることも必要だ。

●六甲山開発の動力は？：誰がイニシアチブを取っていたか。山上の住人はどう関わったか。生き証人へのヒアリングも必要だ。現在の動きはどうか。

●小さい疑問へのこだわり：六甲開祖之碑はどこへ？100万ドルの夜景っていつから？六甲山頂の楠公像はどこへ？など。

●今後の六甲山はどうあるべきか？：何も考えずに利用すると戦前の節操のない開発と同じだ。戦後は国立公園になったが、自然との共生の中でどのように利用するかを考えなければならない。

事務局より

森地さんのフィールドワーカーとしての心意気に感服しました。何気なく通り過ぎていた景色の中にもそれぞれ歴史があり、往時の六甲山の繁栄振りを想像しながら、今後の六甲山のあり方を考えていきたいと思いました。

◆参考・配布資料など

- ・レジュメ ・スライド
- ・年表
- ・地図（昭和11年版
六甲山頂明細地図）
- ・参考図書、資料等
- ・フィールドワーク
探訪マップ



六甲山開発をたどる貴重な資料

ホームページ「祖父の見た六甲山」
<http://www2.osk.3web.ne.jp/~morichi/rk/>

◆参加者：48名（「実践こうべ学」受講者20名）

（順不同・敬称略、ゴシック字は実践こうべ学受講者）

森地 一夫	森地 洋子	久保 順一	大谷安規永
久保 紘一	白岩 卓巳	半田 陽生	嶋谷 敏明
浅井 審一	泉 千代子	澤田 中	戸次 寿一
門脇 正宏	尾崎 尚子	大上 卓男	福永 一登
坂本勝比呂	吉岡 至浩	高橋 敬二	村田 佳子
竹田 明子	村上 定広	八木 浄	小坂 忠之
石田 澄子	中務 勝子	伊藤 邦生	植松富士子
栗原 徹	栗原 隆	香西 直樹	小林 秀樹
芝崎 康子	津村 駿三	長尾 勝彦	長田 勝彦
原田 正造	藤本 武子	藤野 拓二	前田とし子
前田 康男	岩浅 敬由	竹田 充志	宮崎ひろ志
鈴木 武	堂馬 英二	堂馬 佑太	菖蒲 美枝